

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

■テーマ

平尾活性化プロジェクト 人や地域との豊かなつながりと体験を軸に

■テーマに迫る手立て

次の4概念—相互性、公平性、連携性、責任性と3つの能力・態度—他者と協力する態度、コミュニケーションを行う力、進んで参加する態度を各教科・領域で重点的に指導する。

■各学年の主な学習活動

6年

□総合的な学習の時間

「野沢・平尾の誇り」

- ・調べ学習や取材活動を通して、野沢温泉村の特徴に気付いたり、平尾地域のよさに気付いたりしたことを野沢温泉村の方に発表した。

「野沢宿泊体験発表会」

- ・調べ学習や取材活動を通して、野沢温泉村の特徴や地域の人々の温かさについての理解を深めたことをまとめ、下学年に発表した。

「平尾活性化プロジェクト」

- ・平尾の素晴らしさを再認識し、自分たちの住む町を誇りに思い、よりよい街づくりへの提案を考え、ポスターで発信した。

5年

□総合的な学習の時間

「お米プロジェクト」

- ・お米の育て方を調べて育てたり、米作りに従事する農家の方の講話を聞いたりすることを通して、食の大切さや農業の大変さに気付いた。学びえたことを自らの生活に生かしていこうとする心や態度を育んだ。

「新一年生と交流しよう」

- ・園児の特性について調べたり、地域の保育園の園児と交流を図ったりする中で、自分のできることを考えた。それを実行する活動を通して、地域の子供たちとの関わりを深めようとする心や態度を育んだ。

4年

□総合的な学習の時間

「バリアフリーってなあに？」

- ・体験を通して、誰にとっても幸せな生活とは何かに気が付き、自分たちでできることで人の役に立つことを考え、まとめ、学習発表会で全校児童、地域、保護者、お世話になった方々に発表した。

「こんなに大きくなりました」

- ・小さいころの自分や現在の自分を見つめ、新しい自分を見つけたり、これからの自分の生き方や将来について考えた。
- ・小さいころの自分や現在の自分を見つめ、自分の誕生や成長を喜んでくれた人たちの存在に気が付き、支え育ててくれたことに感謝の気持ちをもった。
- ・保護者や地域の方に職業について話を聞くとともに、未来の自分をイメージし、将来の職業や現在興味・関心のある事柄についてまとめた。

3年

□総合的な学習の時間

「平尾くだものはかせ」

- ・ 梨作りの作業にかかわることにより、稲城の特産である梨やぶどう作りに目を向け、その工夫や努力を知ったり、新聞にまとめた。

「とびだせ平尾たんけんたい」

- ・ 平尾にある商店に興味をもち、自分たちで取材し、その特徴やよさを友達、家族、地域の人達に発表した。
- ・ 取材活動を通して、平尾の特徴や地域の人々の温かさに気付いた。

2年

□生活科

「ぐんぐんそだてみんなのやさい」

- ・ 地域の農家の方の畑や自分の鉢で野菜を育てる中で、野菜の変化や成長の様子に気付くとともに、栽培の喜びを味わい、植物への親しみを深めたり、大切にしたりした。

「まちをたんけん 大はっけん」

- ・ 地域探検をしたり、公共物や公共施設を利用したり、発見したことを伝え合ったりして、自分たちの生活が地域の人々や場所と深くかかわっていることに気付いた。地域に親しみや愛着をもって、進んで交流し、安全に楽しく生活した。

1年

□生活科

「なかよしいっぱいだいさくせん」

- ・ 友達や先生と仲良く遊んだり、学校探検をして気付いたことや通学路の様子を伝え合ったりする活動をした。学校や通学路、地域の様子やそこでかかわる人々のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができた。

「ふれあいひろば」

- ・ 校内にあるふれあいセンターの方との交流活動を通して、人とのかかわりや心の交流をした。

なかよし学級

□生活科

「乗馬体験」

- ・ 地域の方が所有する木曾駒の乗馬体験を通して、人とのかかわりや馬との触れ合いをして、地域のよさを体感した。

「宿泊体験」

- ・ 保護者と離れての宿泊を通じて、自然体験や自立をめざした経験を積み重ねた。

「ハートフルステージ」

- ・ 市内福祉センター主催の行事に参加し、市内特別支援学級や、他の団体との交流及び舞台発表をした。

■指導の工夫

- ・ 学校支援コンシェルジュと連携し、地域人材を積極的に活用した。
- ・ 地域での体験活動や地域の人々の交流を通して、平尾の自然、文化、産業、歴史、そして地域のよさ等についての理解を深めた。

- ・ 未来の平尾のよりよい街づくりへの提案を考え、表現し、行動する力をはぐくんだ。
- ・ 人とのふれあいや交流を通して、他人との関係性、社会との関係性をはぐくむとともに、将来への自己の希望や夢をふくらませた。
- ・ 学習後に、実際に活動したり、下学年や保護者・地域に伝えたりする発表の場を設定した。
- ・ 環境教育につながる体験活動や人との交流活動を計画的に年間指導計画に位置付けた。
- ・ 児童の実態や地域の特色に沿ったカリキュラムになるように、前年度の実践を元に、年度末に ESD カレンダー、年間指導計画を見直し、学習活動の充実を図った。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()